

春先の採取がその後のハマボウフウの生育におよぼす影響

作成 (同) いしかり植物ラボ

はじめに

石狩浜では、ハマボウフウは古くから地元住民に春の味として親しまれ、採取が行われてきました。根（地下茎）を残して採ればまた葉が出てくるといふ採取方法は、地元住民の中で引き継がれてきました。

今回は、地元の方からご教示いただいた方法で春にハマボウフウを採取すると、その後どのくらいの株が再び葉を広げるのか、また花を付けることができるのか、について調べました。



手 法

調査第 1 回目：2023 年 5 月 12 日

弁天地区に設けた 10m×20m の調査区を刈取り区と対照区に分け、それぞれ 40 株のハマボウフウの株の横にナンバーを記した割り箸を立て、サイズ計測し、刈取り区では、サイズ計測後に刈取りを行いました。

サイズはロゼット状の葉の長径としました（右上写真）。刈取りは、シャベルをハマボウフウの中心めがけて地面に対して 30~45° の角度で刺し、茎葉を刈り取りました（右下写真）。

調査には、小学生親子が参加し、刈り取った茎葉は持ち帰って春の味を楽しんでももらいました。



この長さを計測しました



調査第 2 回目：2023 年 6 月 29 日

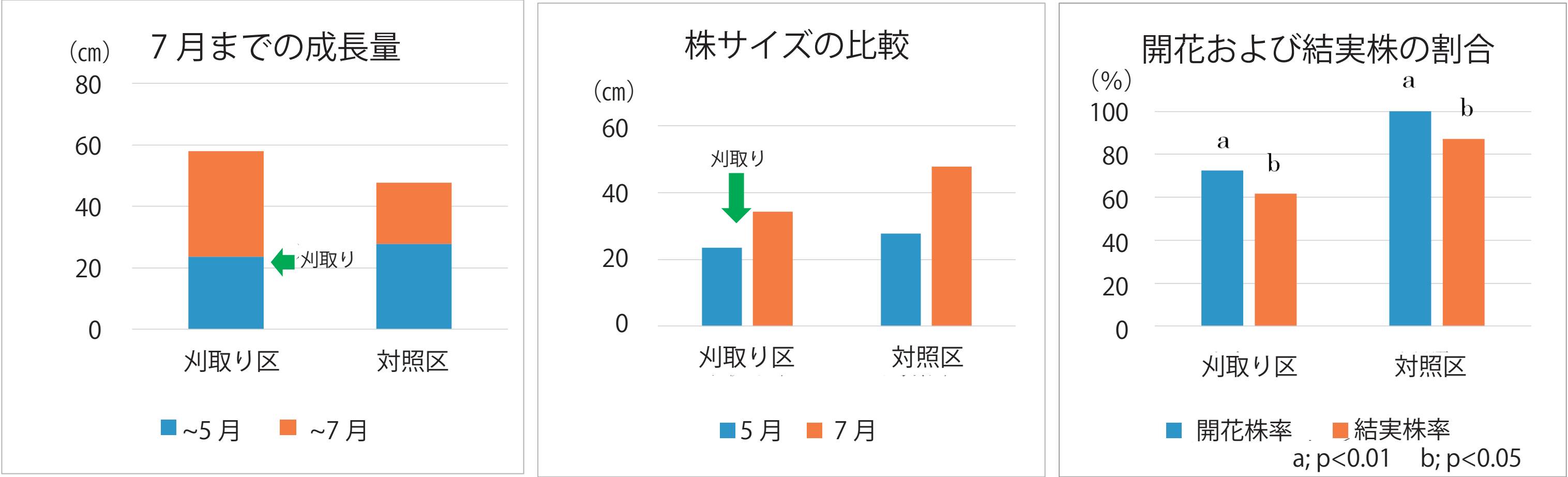
第 1 回目にナンバーを立てた株のサイズを計測し、花茎の有無を記録しました。

春先の採取がその後のハマボウフウの生育におよぼす影響

結 果

5月の刈取り前は、刈取り区の株も対照区の株もサイズに差はありませんでした。刈取り後は、6月末までに刈り取ったすべての株が葉を広げました。刈取り区の6月末までの成長量は、対照区より有意に大きくなり ($p<0.01$) ましたが、サイズは対照区より小さくなりました。

全株数に対する開花および結実株の割合は、刈取り区が対照区より有意に低くなりました（開花； $p<0.01$ 、結実； $p<0.05$ ）。開花株に対する結実株の割合は、刈取り区が86%、対照区が87%で、差はありませんでした。

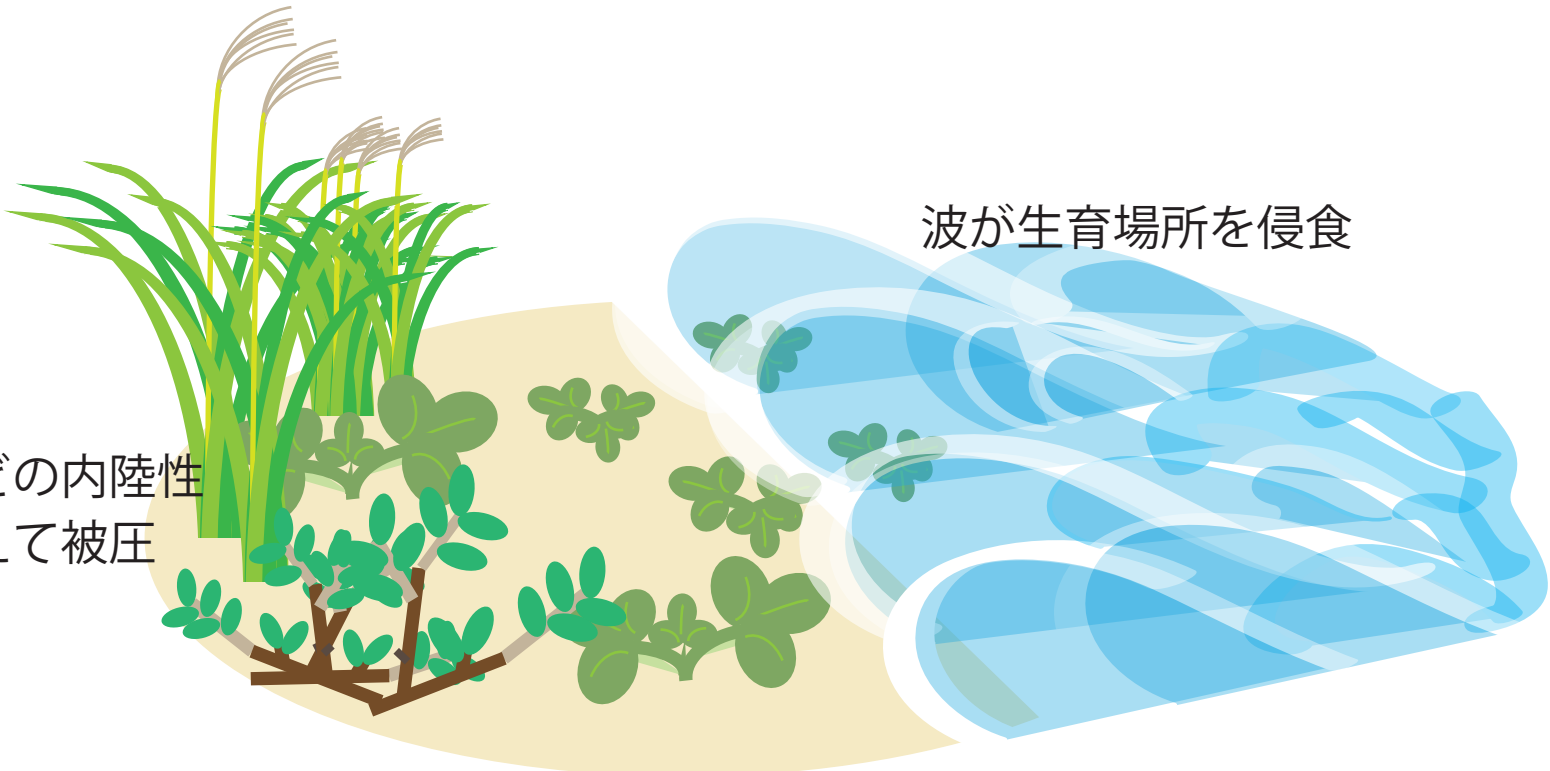
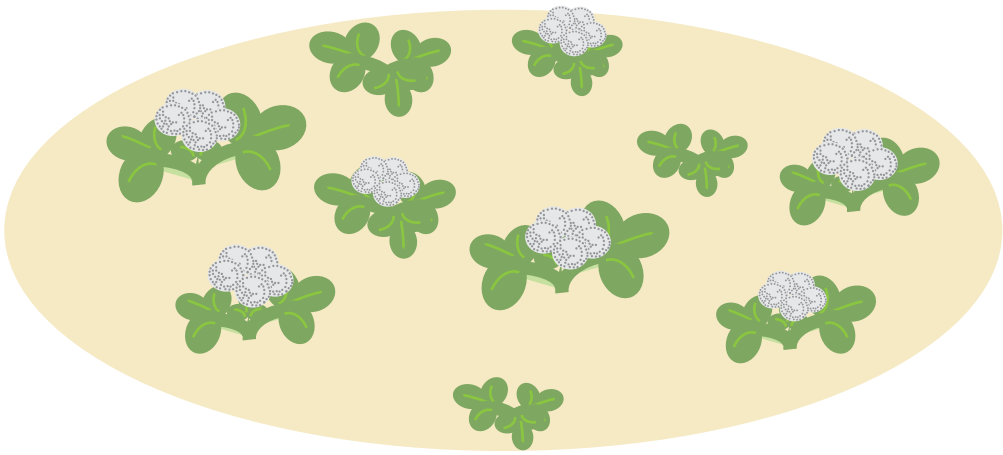
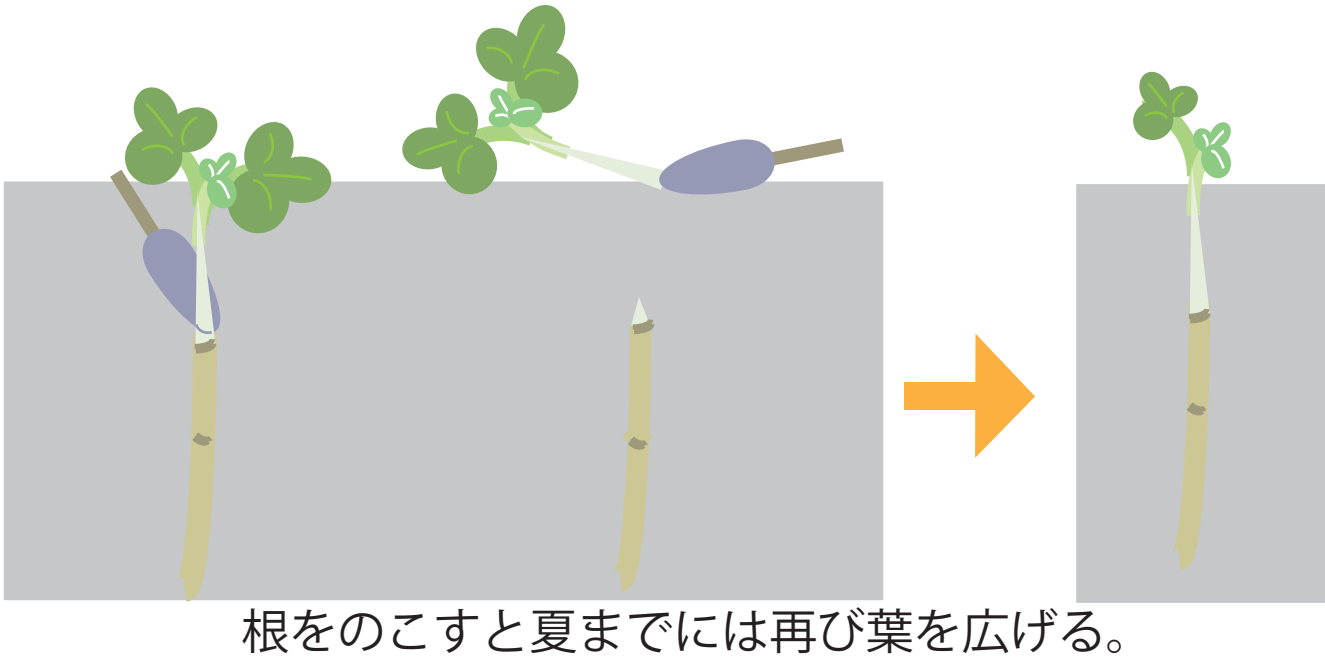


考 察

ハマボウフウの地下茎を残して茎葉を切り取る方法での採取は、採取後すぐにハマボウフウは葉を広げること、採取されても7割程度の株で開花し、6割程度で結実することがわかりました。

ただ、採取しない株に比べるとサイズの低下、開花結実する株の割合の低下が見られたため、採取の量が増え、かつ同じ場所で継続的に採取が行われるような状況下では、種子の生産が徐々に減り、衰退する可能性もあります。

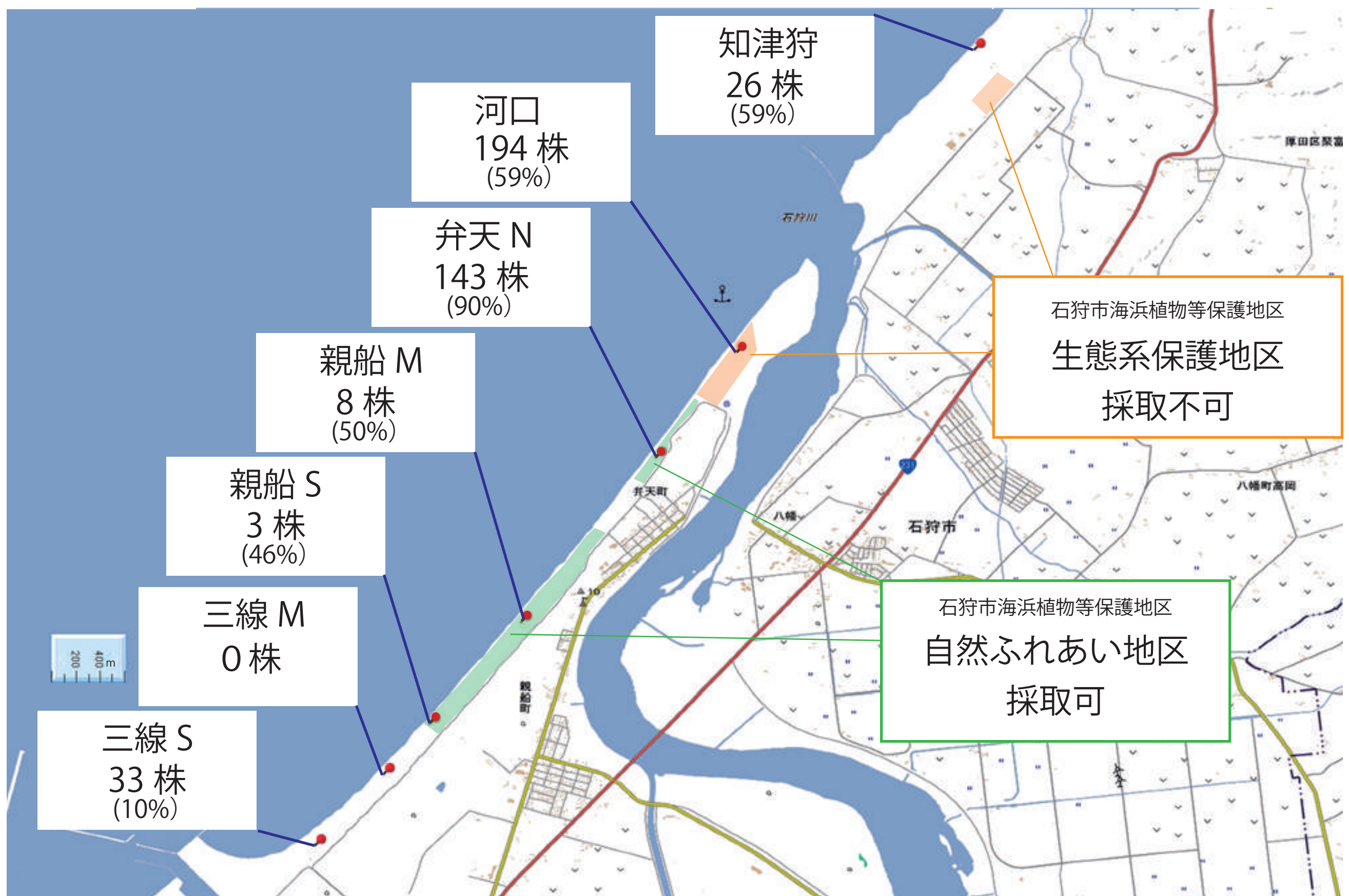
また、侵食や内陸化などの環境の変化も衰退に拍車をかけているかもしれません。



春先の採取がその後のハマボウフウの生育におよぼす影響

ハマボウフウのエリア別 100 m²当たりの株数（2022 年）

※()内は、全株数に対する開花株の割合



色掛けのないエリアは保護地区指定なし。

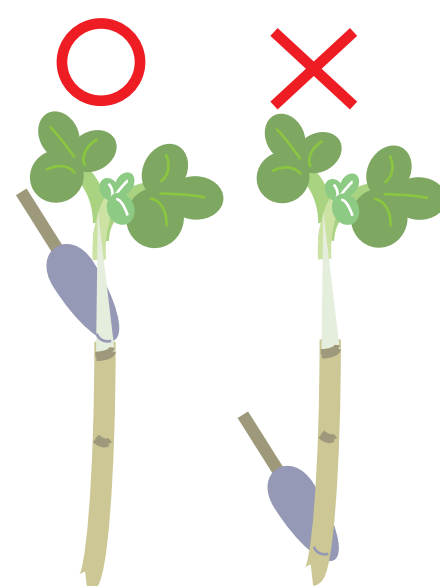
エリアごとでハマボウフウの面積当たりの株数や開花株の割合に違いがあることは（上図）、過去の管理や採取の履歴、侵食もしくは内陸化などの環境の変化による生育状況の変化を反映していると考えられます。

今後も、生育状況のモニタリングとともに、生態系保護地区を除くエリアでは、適正な採取について、普及啓発が大切です。

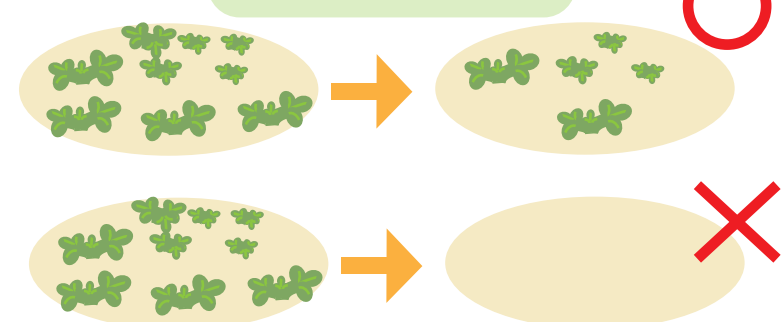
いつまでもハマボウフウを楽しむために



根を残す



株を残す



少ない場所では採らない

